

住宅型有料老人ホーム
すこやか



2018年6月1日(金)
オープン予定
入居定員30人(全室個室)

高齢者から子どもまで、幅広い世代に親しんで頂ける豊かな緑に囲まれた、モダンで温かみのある施設です

心身ともにすこやかに過ごせる施設

- 理念**
- 「高齢者の人権を尊重し」「無差別・平等の医療と福祉の実現」をめざします。
 - 医療と介護機能を併せ持ち「誰もが安心して住み続けられる地域包括ケア」の拠点をめざします。
 - できる限り住み慣れた地域で暮らし続けたいけるよう、併設の通所介護事業所、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所の機能を活かした入居者支援をすすめます。
 - 近接の当法人施設(みどり病院、すこやか診療所、みどり訪問看護ステーション)と、協力法人(みどり福祉ケアハウス、グループホーム)、地域の医療機関、介護施設との連携を強化し、地域包括ケアの推進に積極的に参加していきます。

施設の特徴

「無差別・平等の医療と介護」の実践の一つとして、低所得者への家賃の減額制度を実施します。

みどり病院、すこやか診療所との連携により、透析や胃ろうなど医療必要度の高い入居者の受入と対応をすすめます。

同一敷地内に事業所内保育所を移転し、施設と保育所との間に公園を整備し、入居者と子ども、地域の方が交流できる空間を設けます。

併設施設

| | | |
|---|--|---|
| <p>すこやかデイサービスセンター (定員45名)</p> <p>入居者及び地域の要支援・要介護者の通所介護施設で、入浴、リハビリ、認知症予防など利用者のその人らしい生活を支えるために、それぞれのニーズに合ったサービスを提供します。</p> | <p>すこやかヘルパーステーション</p> <p>入居者の夜間を含めた身体介護・生活支援サービスを提供するとともに地域の介護保険利用者の訪問介護サービスを提供します。</p> | <p>介護保険相談センターすこやか</p> <p>ケアマネジャーが入居者及び地域の方のケアプランの作成、介護保険はじめ介護に関する各種相談に対応します。</p> |
|---|--|---|

併設施設 別棟
わらべ保育所



2018年4月1日
新築移転 開所予定

ケアハウスささゆり地域交流ホール「健康と文化」公開講座と映画会のお知らせ

2018年1月から2月までの「健康と文化」講座と映画会の予定をお知らせします。講座は、NPO法人生活サポート・助け足ネットのまちづくり事業として開催しています。映画会は、「高齢者施設をつくる会」の文化活動として取り組まれています。参加費無料・予約なしでどなたでも参加できますので、お気軽にご参加ください。

問い合わせ先: みどり福祉会 058-244-1200 岐阜市北山1-15-25

※講師の方と会場の都合で、日程と内容が変更となる場合がございます。ご了承ください。

| | 健康講座 | 文化講座 | 映画会(2時~) |
|----|---|---|----------|
| 1月 | 「ロコモダンス」 1月13日(土)2時~3時 佐野 典子さん | 「うたは心の友、歌って笑って健康づくり」 1月20日(土)2時~3時 明石 眞喜子さん | 1月17日(水) |
| 2月 | 「お笑いは健康のもと」 2月10日(土)2時~3時 経大亭 勝笑(岡田 茂樹)さん | 「2018新春ギターコンサート」 2月24日(土)2時~3時 川瀬 寛さん | 2月21日(水) |

健康とくらし

第260号
2018年1月

発行責任者: 渡邊 優
岐阜健康友の会
岐阜市北山1丁目13番11号
事務局/電話・FAX
(058) 244-3522
E-mail
tomonokai@gifu-min.gr.jp

2017年10月末日現在
会員数10,484人
基金合計4億1986.5千円



高齢者施設・保育所の起工式

謹賀新年 2018年を元気・健康・まちづくり 本格挑戦の年に

岐阜健康友の会 会長 渡邊 優

今年は、みどり病院40周年、来年が勤医協50周年の節目になります。そして、すこやか有料老人ホームを含む総合施設オープンと、わらべ保育所の新築移転と画期的な事業が続きます。

1969年の華陽民主診療所開設以来、健康友の会会員は、こうした新施設建設を基金募集で支えてきました。今回の5,000万円基金へのご協力ありがとうございます。

同時に私たちは、一貫して会員相互の元気・健康に、安心して住み続けられるまちづくりを推進してきました。班を基礎に支部を単位とした活動に加えて、居場所でのとりくみ、地域とのつながりと新たな展開が始まっています。

キーワードは「医・食・住」。医療・福祉施設とこども食堂や高齢者サロンなどが混在する、「生活の薬箱」ともいえるような4世代共生のまちづくりが全国で広がっています。

今年は、元気・健康・まちづくりに本格挑戦し、住みなれた地域・まちを住み熟(こな)すとりくみをめざしていきましょう。



健康春秋

雑誌「世界」10月号に歴史学者の武田清子氏のインタビュー記事「天皇観の相克」と「現代」という表題で、そのなかで氏は「明治維新以来の体制は相反する二つの原理を内包する体制であった」と指摘している。▼つは天皇を神格化・絶対化する側面、もう一つは天皇も憲法によって制限されるという制限君主的な側面で、前者は超国家主義的・合理主義的要素であった▼それを氏は「二頭立ての馬車」と呼んで、天皇制体制の確立後、「教育勅語」等で天皇の絶対主義的性格が強くなり天皇制ファシズムにつながった。一方後者は「大正デモクラシー」の流れをつくる。吉野作造の民本主義、美濃部達吉の「天皇機関説」も生まれた▼この二つの流れは、戦後にも続いており、後者は日本国憲法として結実する。いっぽう、前者の勢力は安倍政治により改憲への目論見となつて現われている▼それは今回の衆議院選挙の結果ともなっている。「リベラル」の流れは、深く日本の現代史の底流となっているのである。(K)